

第2回大刀洗町住民協議会議事要旨

コーディネーター	荒井英明（神奈川県工業内陸団地事務局長，構想日本特別研究員）
ナビゲーター	宮崎 稔（学校と地域の融合教育研究会 会長）
説明担当者（自治体）	建設課管理係
日時	2020年12月26日（土） 13時00分から16時00分
場所	大刀洗町役場3階大会議室
その他	参加者数 13名 欠席者数 12名

趣旨・概要

1. 前回の振り返り・今回の内容確認
2. ナビゲーター講話
3. 議論

協議の流れ

1. 前回の振り返り・今回の内容確認

コ：前回、自己紹介という形で皆さんから公園について意見をいただき、資料のとおりまとめてみた。感じている課題については左側に、将来の活用イメージは右側上段に記載をした。また、誰がどのような使い方をしたらいい公園になるのかという観点から、今後の議論の切り口になり得るものについては、右側下段に記載した。

「課題」という言葉について皆さんとの共通認識を持ちたいと考えている。

「こういう姿にしたいという理想」と「今の姿である現実」を比べた時に生じるギャップが「課題」になる。課題があると感じるということは、その裏側にそれぞれが理想形を持っているということになる。前回、課題をお話いただいたが、話を整理するために今回以降は「どういう公園がいいか」「誰がどういう使い方をするのが理想的なのか」という所から改めて話をしていきたいと思う。理想的な公園にするために「住民はどういったことをした方がいいのか、何が出来るのか」「行政に何をお願いしたらいいのか」「理想の公園に向かってどういった活動をしていけるのか」という議論を住民協議会でしていきたい。

本日の流れについては、議論を進めながら、最終的には「改善提案シート」に現状の課題とそれぞれが出来る改善策を記入していただく。第3回は、今日記入してもらった内容を整理した上で、課題の解決方法について議論をしていきたい。

2. ナビゲーター講話

ナ：突拍子もないんじゃないかというくらい違った視点から、考え方の提案をできればと思っている。住民主体の公園作りというテーマでお話をさせていただく。あえて「住民主体の」としたのは理由があり、この先長い目で見れば人口減少が進み、税収が減少する。すると、役場に全ておんぶに抱っこ状態にはなくなる。自分たちでやれることは少しでもやろうじゃないかという時が必ず来る。そういった意味で「住民がこんなことはやれるのではないか」「町のために一肌脱いで何かをやりたい」という場が作れば良いなと思っている。

前回のアンケート結果を拝見して、心に留まったものがある。

①私たちの力で公園を少しでも使いやすく、多くの人達が利用しやすいように考えていけるなんてすごくいいなと思いました。

→大刀洗町はすごいと感じた。7年にもわたり住民協議会を継続して実施し、住民の意見を聞きながらどのような町にしていきたいかとずっと努力をされていることに感銘を受けている。それを皆さんも感じ取っていらっしゃると思った。

②素人の意見を聞いて町を動かす住民協議会だった。

→素人の意見を馬鹿者、よそ者などと言ったりするが、違った視点から見ることはとても大事だと考えている。

③遊びを工夫すると怒られるので子どもたちは行かなくなった。

→こんな町にしてはダメだと思う。工夫しないで言いなりになる子どもを育てていくのではなく、子どもが少しでも工夫をしていたら大きく暖かく見守っていくような町になってほしい。それが次の大刀洗を担っていく子供たちを育てることになるのではないか。そのためにも住民主体の考え方が必要になってくるのではないか。

④コンセプトから改めて作り直すぐらいの考えで意見を出していただきたい。

→コーディネーターのまとめのお話ではあるが、今までの公園の常識に囚われず、皆さんの中で考えていただけたらと思う。

そうはいつでも、もし住民だけで公園を管理することになったら皆さんはできるでしょうか。「ちょっとそんなの無理だよ」「やっぱり役場が必要だよ」となるのでしょうか。役場がやることは何か、住民が一步踏み出してみるとどうなるのかという住み分けのものを、実際の事例を交えお伝えする。学校にも「公」が付く。例えば公立小学校、住民のお金で建設している。公園は、役場が作るものではあるが、自分たちの公園なのか、役場の公園なのか、「公」の意味をもう一度考えてみたい。全てを役場にやってもらうのではなく、自分で動き出してみる。「公」の正解はない。この住民協議会も正解を求めるものではない。「私の中に正解があるんだ」という想いで自由な議論を存分に行っていただけたらと思う。

事例としてお伝えするものは、「公」の場所を住民が自主的に管理運営をして、結果的に役場の人件費を減らしつつ、自分たち（住民）が得をして楽しんでしまうというものである。

前日に公園を見学してきた。前回、柵が必要だという意見が多かったが、設置をするとなるとかなり長い柵が必要になると思う。個人的には柵を作らない方が良いと感じた。トイレは外観をもう少し綺麗にしたいと感じた。また、大堰駅で下車をしてびっくりした。以前に来た時と異なり、とても綺麗になっていた。

例えば、トイレの整備（もっと綺麗にする、もっと電気を明るくする）を行政が行うことは当たり前のこと。だが、外観に絵を描くのは子どもにやらせてみたい。何故なら頻繁に使うのは子どもたちだから。

例えば、柵は設置をしないで、何でもやってあげて、守るのではないという考え方もあるのではないだろうか。ヨーロッパで公園に行くと、立ち入り禁止という立て札は無いという。リスク オン ユアセルフ (risk on yourself) と書いてある。大刀洗公園でサッカーボールで遊ぶとしたときに、私が子どもの時代は、「ここ落ちるかもしれないぞ。だから川にボールを落とすミスキックは相手に一点。」というようにルールを工夫していた。もちろん、ボールが落ちた時のために長い柄のついた

網を用意しておくということは役場が行わなければならないと思うが、何でもかんでも危ないからやってはいけないという、大人の余計なお節介によって子どもたちの創造性を奪うことは、子どもたちがどんどん小さくなっていってしまう。「柵はないけれどルールをどう考える？」といったような、住民が子どもを育てていくことがこれから求められるのではないだろうか。

これから紹介する事例は、公園ではないが、学校を使って住民が好き勝手に楽しくやってしまった事例を触りではあるがご紹介する。詳しくは役場に寄贈した著書をご覧くださいましたら幸甚である。

一つ目は、校庭で花火をやってしまった事例である。（※詳細は資料 p. 9～10 参照）

二つ目は、子どもたちが放課後に遊べるように校庭を開放した事例である。（詳細は資料 p. 11 参照）

三つめは、校庭で焼き芋の会を実施した事例である。（※詳細は資料 p. 12～15 参照）

公園を見学した際に、良い斜面があることにも気づいていた。役場になんでも作ってもらうのではなく、竹を使って自分たちで遊具を作った事例もある。もっとこうしたらいいのではないかというアイデアを出していくことも大事ではないかと考えている。（※資料 p. 16 参照）

東日本大震災で被災をした女川町に 2 年程復興支援で伺っていた。そこでは、集会所で自由に使っていていいということをしてきた。あれをやったらいいのではないか、これをやったらいいのではないかということを行行政任せにしなかった。やれることが何かあるのではないかという考えで、あれもこれもがあちこちで進められていった。（※詳細は資料 p. 17～20 参照）

公園の管理を全て住民が行うのは難しいが「部分的に行うことが可能ではないか」「一歩進めることが出来るではないか」ということを考えるきっかけとしていただけたらありがたい。

一見すると子育て世代の方が多いように思う。10 年後では子どもたちも大きくなってしまふ。待たなしの事柄だと思ふので、小さな一歩で進んでいただけたらと思ふ。色々なことを繰り返しながら毎年行っていけばいい気な広がりになる。

行政にお金を出してもらうのではなく、やれることをやって、行政には許可だけ出してもらう位の気持ちで受益者が一歩踏み出して、素敵な大刀洗公園にしていただけたらと思ふ。

3. 議論（要旨）

コ：自分たちで出来ることは自分たちでやろうという意見は、これから出てくるかもしれない。ただし、それを誰がやるのかというのは難しい問題。ナビゲーターの話にあったように、人材を作る・育てていくということが一つのポイントだと捉えている。

仮に、自分ではできないかもしれないと思っても、この場では「住民がやろう」という意見としていただきたいと思っている。発言をしたから自分がやるということと、誰がやるということは切り離して考えたいと思ふ。

まずは、前回欠席した方から自己紹介をいただきたい。

委：39 歳、居住して 5 年になり、製造業に従事している。大刀洗公園の徒歩圏内に住んでおり、このコロナ禍の影響もあり、個人でも家族でも歩きに來たりしている。幅広い世代が利用していて凄くいい公園だと感じている。認知度が高いわけではないと思ふので、町全体で幅広く知ってもらい、遠方の人も來てくれる公園に出来たら嬉しい。

コ：前回もお伝えしたと思うが、大刀洗町の「人間関係がフレンドリーで住みやすいことが魅力」というのは一つのポイントになると感じている。

今日は、どういった公園が理想なのかという点に注目してご意見をいただけたらと思う。その際に、「利用者の世代」「利用者の居住地」「利用の方法」に着目して考えていただけたらと思う。たった一つの正解はないので、率直なご意見をお願いしたい。

委：今回を迎えるにあたって、改めて公園を見に行った。幅広い世代で利用されていたので、全世代が利用できる公園が良いと思う。だが、あの公園は何を求めて、どういったターゲット設定で作られたのかわからない。

コ：前回、キャンプが出来たらという意見をいただいたと記憶しているが、出来るようになったらどう思うか。

委：駐車場もあるので、キャンプ利用は十分考えられる。

委：この場に参加するまで大刀洗公園のことを知らなかった。その理由を考えると、道路に面している標識（看板）がわかりにくいからだと思う。もっと見やすいものにしたらどうか。公園の入り口も建物に邪魔されてわかりづらいと思う。

夏祭りの開催やイベント広場で学生の演奏会などを行ってもいいと思う。また、動線を作るように四季の花を植栽してもいいのではないかな。遊具には大きなすべり台を加えてはどうかとも考える。

委：花火が出来るようになったらいいなと感じた。そういったイベント行うためには財源も必要になるので参加費を集めることも考えてもいいではと思う。

いずれ自分が運転出来なくなった時の公園までの移動手段をどうするか、実証実験を行った巡回バスの停留所に公園も加えるなど考えてもらえるとありがたい。

委：全世代を対象にするのが良いと思う。アパートの軒数が増えていることは、子どものいる家庭も転入しているということだと思うので、公園に行くまでのルートも含め、子どもたちが安心して遊べる場所として公園を位置付ける必要があると思う。エリアは縛る必要はないと思う。遠くからでも来る人は来る。遊具を充実させて、特に小さい子どもが安心して遊べるようにゾーニングが必要だと考える。

コ：川の柵に関してはどう思うか。

委：子どもたちに危険を学ばせる考え方も理解できるが、全部でなくともポイントで柵は必要だと思う。危険な所を放置しておく必要はない。四角い土管が突き出している所の上で遊んでいる子どももいる。

担：工場の配水の出口だと認識している。突き出しているのは、周りの土が削れないようにするため。

委：大刀洗公園に一日中入れるかと思うと、日よげがないので難しい。柵があった方がボール遊びが出来るようになるのではと感じている。全世代が遊べるような充実した公園にしたい。

委：全世代が利用できる公園が望ましいと思う。町民以外の利用まで考えると特別なことを考えなければいけなくなると思うので、まずは町民を対象として整備していくのが良い。ジョギング・散歩をしている方が多いように感じるので、四季の花を植えたり、夜もライトアップをして朝から夕方過ぎくらいまで楽しめる公園になったらいい。

コ：ライトアップは公園全体を明るくという意味か。それともピンポイントで明るくするイメージか。

委：花を美しく見せるようなピンポイントのライトアップのイメージ。

コ：過去、桜をライトアップしていたと思うがそれは撤去したのか。

担：像のライトアップはしている。仮に桜をとると新たに設置する必要がある。

委：高齢者が公園を利用するのは散歩やウォーキングが主だと思う。一方で、アパートが増えていることから若い世代、子育て世帯が利用しやすくなった方が良くと思う。SNSを利用して町外にも発信して来訪者が増えたとしても駐車場のキャパシティの問題がある。そのため、外に発信するのではなく、町内に居住する親子連れを対象にして利用してもらうのが良い。子育て支援センター「ちゃお」の催しを芝生の上でやったらどうかと思う。遊具や日よげの設置も一つだが、芝生を綺麗に管理するという必要だと思う。自身も夜歩いてみたが、照明は今でも十分だと感じている。これからどうするかを考えた時には、これから入って来る若い世代が使いやすいこと、悩みを持っている人の解消のためのイベントを開催するなどのために公園を使ったらどうかと考えた。

コ：情報発信という観点から、利用は町民を前提とするが、良い公園があるよという情報を町外の人に発信したら、大刀洗町に住んで子育てしてみようかという効果も期待できるかと思うがどう感じるか。

委：現時点でも町の情報発信は優れていると思う。これからも続けてもらいたい。

コ：ここで、前半の振り返りとしてナビゲーターからご意見をいただきたい。

ナ：3点お伝えしたい。

①今、あまり対応されていない世代は中高生である。小学生や高齢者には皆手を差し伸べるが、一番エネルギーを持っている中高生が思う存分発揮できる場を公園を通じて出来たら良い。

②柵は、個人的には作らない方が良いと感じている。仮に木の柵を作ったとしたら雨風で風化する。鉄の柵を作れば錆びてきて何度もペンキを塗り直すことになる。コストはどれくらいになるかわからない。因みに、皆さんはどれだけの高さを想定しているか。ある程度の高さであれば弾んだボールは超えてしまう。ではどれだけ高くするのか。それをエスカレートさせていくのか。また、朽ちたところ錆びたところが危険で子どもが怪我をしたということを考えていくよりも、危険予

知能力を身につけることの方が大事だと考えている。安全安心は、人に作ってもらうことも大事であるが、自分自身で能力を育てることの方が大事である。これは、自分たちで出来ることの一つだと思う。公園がそのきっかけ作りになるのではないだろうか。

- ③「誰がやるのかは切り離して」とコーディネーターからあったが、各地では運営委員や利用者委員会というものを組織している。少しでも何かやってみたい、関心があると考えている人全員で運営委員をやっている。例えば何かを行う時には、沢山の中の都合のいい人が集まって行うことでカバーしている。自分の生活時間を犠牲にしてまで行うのではなくて、やれることをやってみるということが大事なのではないか。

コ：危険予知能力の育成は、危険予知訓練（KYT；Kiken Yochi Training）と言われる。このあと少し触れたいと思う。

色々な意味で住民の力を活用するというので、かつては「住民参加」という言葉を使っていたが、最近は「住民参画」という言葉を使うようになってきている。参加というと行政がプランを作って、それを住民に協力してもらうものが強かったが、参画では、この住民協議会もそうだが、考えるところから住民に参加してもらうようになった。今後、公園のコンセプトが定まってきた後に、どのように住民にも加わってもらうかというポイントについても議論をしていきたい。

また、第3回までの間に友人や家族に、公園のことについて意見を聞いていただきたい。

委：小学生くらいまでが対象の遊具だと思うので、中高生をターゲットにしてもいいと思う。スケートボードパークやボルダリングといったものを作ると良いのではないか。こういった施設は数が少ないので、町民に限らず町外からも人が集まると思う。

ウォーキングコースはきちんと一周できるような整備と、基山公園にあるような歩くスピード別のレーン分けをしてもらえたらありがたい。

トイレに関してだが、建造物としてはとてもおしゃれなものになっているので、絵は描いてもらいたくないと感じている。

柵については、付けてもらいたくないと思っている。事故が起きた件数をまずは確認したい。

担：ボールを取りに行つて流されたというような事故は聞いていない。

コ：高年齢の子どもを対象にした遊具を設置したとすると、小さい子どもが遊ぶエリアとのゾーニングを図る必要が出てくると思うがいかがか。

また、健康づくりについて、ウォーキングをしている人は確かにいたが、ただ歩いているという印象を受けた。「このように歩いたら効果が出る」といったテーマを設けた方が良いと考えるがどうか。

委：エリアは分けた方が良く思う。

自身は、一周9分（約1km）を3周すると約30分歩いたというような使い方をしている。例えば、看板を見て「今何キロ」というものがわかれば意識付けに繋がるのでは。

コ：歩き方のガイドライン（健康づくりのコンセプト）のようなものを公園に付加することは可能か。

健康課：現在、大刀洗公園にウォーキングコースを作ろうということで、住民を招いて会議を開催している。その中で、歩き方のフォームや消費カロリーを記載した看板を作ろうという話になっている。その他にも、コースに矢印を書いてコース設定を考えている。完成の暁には、お披露目会と大会を開催できたらと考えている。（※傍聴）

コ：子育て支援センター「ちゃお」の話が出たが、小さい子どもたちを公園で運動させて、子どもたちの健康づくりを行うということも出来るのではないか。その際に、芝生の上での理想の遊び方や運動の仕方を記したガイドラインやガイドブックを作ることは可能か。

健康課：遊び自体のガイドラインは把握をしていないが、遊びの提案はできると思う。ウォーキング大会に合わせて、子どもをターゲットにした遊びのイベントも現在考えている。（※傍聴）

コ：皆さんからの意見を伺って、例えばではあるが、健康につながる歩き方や遊具の遊び方など、公園の利用の仕方のガイドラインがあった方が良いのではと感じている。

委：ジョギングやウォーキングをする人は、距離を運動の目安にしていると思うので看板に距離表示をしたらどうか。

コ：公園のパンフレットを見ると一周の距離は記載してある。

委：現場の地図にはない。

委：全世代が遊べる公園になるといいが、個人的には子どもたちが遊べる公園になったらと思う。子どもたちだけでは校区外に出てはいけないことになっているので、遊びにくいのではないか。なお、校区ごとに公園はあるのか。

担：校区ごとの公園はない。ただし、大刀洗校区には下高橋官衛公園、菊池校区には大刀洗公園、大堰校区には桜つつみ公園・大堰公園、本郷校区には運動公園がある。

委：子どもは小学校の校庭で遊んでいるが、もう少し遊び場が欲しいと感じる。

コ：全世代を対象とのことであつたが、細分化をしていくと、保護者と一緒に遊びに来る子育て世代と自分で移動してくる小学生に分けられる、中高生になると設備がないという整理になると思う。大刀洗公園だけの問題ではなく、小学生が放課後をどのように過ごすのかというポイント含めた大きな課題のように感じる。

委：全世代が遊べる公園になったらいい。色々な要素はあると思うが、健康のために運動と散策、子どもたちは遊びに行くと思うので、目玉の遊具があつたらいいのではないか。また、年代別に分かれて遊べる遊具があつたら安心ではないかと感じる。自身も柵はない方が良く感じており、子どもたちが自分で考え工夫をして自由に遊び、親はそれを見守るので良いのではないか。KYTは職場でも

よく用いる。併せて、ヒヤリハットを利用者から聞き取りをして、その対策を皆で講じるのが良いのではないか。

家族に何が欲しいかと聞いてみたところ、BBQが出来たら良いということと、家族全員がスケートボードをするので、ちょっとしたスペースでも構わないのでできるようになったらありがたい。スケートパークがある公園は利用料を支払ってでも利用者が集まっている。

コ：そのスケートボードの施設はスロープが一個あれば十分なのか。

委：レベルが人によって様々なので皆が満足できる施設があればありがたい。

委：町の人が利用するにあたって実際に利用をしてみて、人に勧めたい施設があるかという、あまりない。どういった物を作っていくかというコンセプトについては「人に勧めたいもの」という視点で目玉の施設やイベントを自分たちで作り上げ、自分たちで利用して学びの場にすれば、町外の人にも勧めたくなるようなものが出来上がるのではないか。また、情報発信として、公園で何をやっているかというのをあまり知る機会がないので、QRコードを活用してみてはどうか。結果的に、色々な公園に足を運んでもらえるようなことも考えられるのではないか。

委：町の政策の方針を考えても、若い世代や子育て世帯をターゲットに考えたい。現状からキャパシティを増やすことは難しいと考えられることから、町民が対象になってくる。公園自体が水をコンセプトとしていることもあり、エリア分けをして一部では川べりに降りられるようにするなど、水に触れられるようなことが出来てもいいのかなと思う。

中高生に関して、現状は小さい子どもか高齢者の利用になっているので、ゾーニングをして遊べるようにするのはいいことだと思う。また、夜間のライトアップはより明るくした方が良いと思う。

委：水に触れられるエリアはあり、夏場は子どもたちが楽しんでる。

担：じゃぶじゃぶ池のことだと思うが、今は立ち入り禁止にしている。

コ：ライトアップは皆さんから意見が出ていて、個人的にもいいなと感じている。厚木市では、花火大会の後に花火師への感謝の気持ちを込めて、観客側からスマホのライトを点けて照らしたことがある。なので、例えば、夜公園に行くときには、皆がスマホで照らしながら歩く、すると結構な光量になるのではないか。あるいは懐中電灯を持って公園に行くようにするなどの考え方もあると思う。皆が集まることで明るくなるという活用の仕方もあるのではないか。

委：幅広い世代の人に使ってもらえる公園になるといい。まずは町民をターゲットにしつつ、町民が良いと思えば、自然に町外にも広まっていくのではないかと思う。BBQの話があったが、ルールを作り、場所を決めた上で、責任者を設けることでルールを守りやすくなるのではないかと思う。管理人もいるので、料金を支払えば利用できるようにするなど、ルールの幅が広がればより多くの人に使ってもらえるのではないか。遊具は、中高生が使いにくい現状が使いにくい現状があるので、低学年と高学年を分けることを考えたい。自身がバスケットボールをやっていたこと、福岡県はバスケットボールが強いことで有名なことから、リングがあったら良いと思う。

ウォーキング会の話もあったが、ルールが広がればイベントをきっかけにポスターや回覧板、SNSで情報発信をして、公園の存在を知らない人に知ってもらうこともできると思う。

ライトアップについて、季節ごとに照らす場所（植物）を変えれば、多少費用は抑えられると思う。柵についてだが、ナビゲーターの話はなるほどと思ったが、知人に聞いてみると柵がないと子どもに使わせたくないという意見が多かった。個人的にもあった方が良くと思う。柵があってもボールが川に落ちてしまうことはある。その時に、どう危険を予知するかということも子どもたちには大切なことだと思う。柵があって、その先の危険予知をどのように考えるかということも大事になる。

コ：前回、色々な制約があるという話が出たが、守らなければいけない最低限のルールと、エリア内のゾーニングは必要だと考える。できれば、この協議会で、どういったルールで運営するか（もっと厳しくするのか、もっと緩やかにするのか）という所も最終的には示せたらと思う。KYTの観点からの柵は、意見が分かれるところと思う。いずれにせよ、大人が柵があるときとない時の状況を認識した上で子どもたちに危険予知をさせることはいいと思うが、「全くどうなるかわからないがやってみな」というのは時代に即していないと思う。わかっているやらせることと、わからずにやらせることは意味合いが違うと思うので、認識をした上で柵の有無と子どもたちにどのようにKYTをしていくかを考えることが必要になる。

委：名称を大刀洗菊池公園にしたらどうか。それなら場所もわかりやすい。近所の方しか使っていない印象があるので、他の校区の人にも利用してもらえたらいい。まずは、全町民をターゲットにして、それから外に広げていけばいいと思う。

コ：意見でもいただいたが、町民が利用しやすい公園になれば、町外の方は来るようになると思う。

委：そこから、大刀洗が住みやすいということがわかれば居住する人も増えるのではないかな。

ナ：あれはいけない、これはいけないという決まりを一つ一つ考えていくと、私のように皮肉者がいたら追い付かない。例えば、初めて自転車に乗る子がアスファルトの上で転んで怪我をするよりも、土の上で転ぶ方が怪我は少ないと思う。一律に自転車はダメだというのはいい決まりなのだろうか。私が作るのであれば、公園のルールは3つしか設けない。

①みんなの公園です、楽しく使いましょう。

②迷惑と思う人がいることは止めましょう。

→書いていないからやって良いということではない。迷惑と思うことは言っていない。

③怪我をしたら自分の責任です。

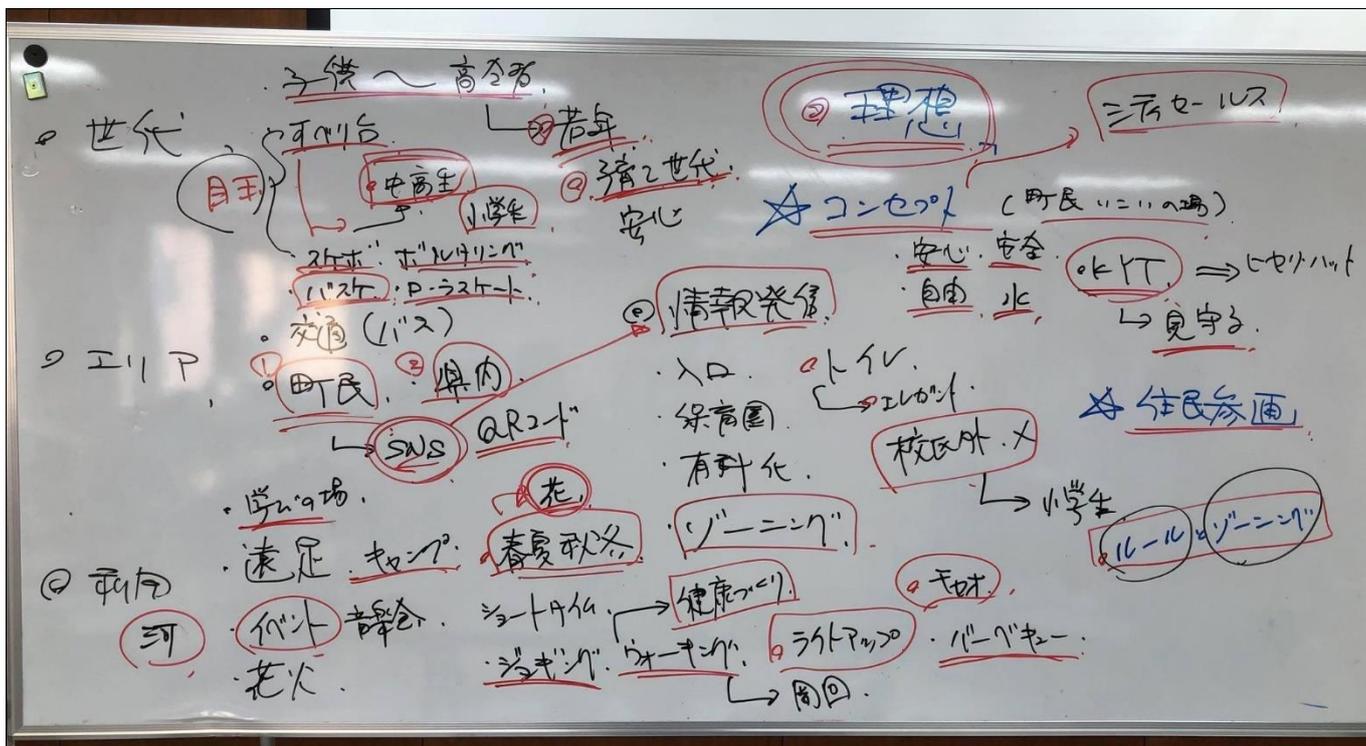
先ほど、高いすべり台があると良いという話があった。私もあったら楽しいと思う。役場が恐れるのは、誰が責任を取るのかということ。公園の設置者は役場で、役場に責任を取らせることを避けるためにルールを設けるが、それは追い付かなかつたり、抜け道を見つけるものがある。そうではなく、皆で運営していけるようなものをじっくりと練っていくことが必要だと思う。自分たちがずっと使いやすいルールを皆で生み出していくことが大事であり、そのきっかけ作りに住民協議会を活用してほしい。

「怪我と弁当は自分持ち」というのが私の考えである。役場に責任を押し付ける前に、それをわかった上で楽しくやっていくという住民融和が出来るような公園になってくれるといいなと思う。

コ：公園のコンセプトが作れるといい。今のパンレットには「町民憩いの場」と書いてある。これを新しいフレーズに置き換えるのか、今後も同じ考えで行くのか、今日頂いた意見の中では「安心安全」「自由な公園」という言葉がコンセプトとして使えそうだと感じている。また、「全世代が使える」というのもコンセプトになり得るかもしれない。今後、改めて整理をしていきたいと思う。

改善提案シートの記入にあたって、特に、目玉となる設備はあるのか、目玉の設備がなくても利用方法で良い公園にできるのかという所は、考えがわかれるところだと思う。次回は、改善提案シートに記入いただいた内容と合わせて、どのように住民が参画していくかという観点から、現実のものとするために、誰がどういう役割を担うと良い公園になるのかということを議論していきたい。

ホワイトボードの写真



次回の協議会に向けた準備

次回の協議会に向けて

- 家族や友人に公園のことについて意見（どのような考えがあるか）を聞いてくる。

次回の協議会で議論したい内容

- どのように住民が参画していくかという観点から、誰がどういう役割を担うと良い公園になるのか。

次回の協議会に向け準備する資料等

- 特になし。

備考（その他、記録すべき事項を適宜追加）